

茨城県内水面のサケ科魚類の分布について

位 田 俊 臣

県内河川湖沼には、サケ科魚類の分布がみられ、また、サケ・ヤマメを中心に、増殖事業も盛んになりつつある。

これら増殖事業を安定的・効率的に進めるためには、多種、多方面の調査研究が必要と思われる。

そこで、先ず県内内水面のサケ科類の分布棲息の状況を調査した。

方 法

採捕調査は、昭和54年～同56年に掛けて行った。また、魚類に関して知識の有する釣人、漁業組合員等からも聞き取り調査を行った。また、報文に記載されているものも参考にした。種の分類は、中村¹⁾によった。

結果と考察

県内内水面に分布棲息するサケ科魚類は、サケ *Oncorhynchus keta*、サクラマス型としてサクラマス *O. masou*、ヤマメ *O. masou*、イワメ *O. iwame* の3種類、更にニジマス *Salmo gairdnerii irideus*、イワナ *Salvelinus pluvius* の合計6種であった。

(1) サ ケ

県内のサケ科魚類の中で最も名が知られ、また、古くから増殖事業が行なわれている。

現在鬼怒川・那珂川・久慈川・大北川で放流事業が行なわれ、毎年数100万尾が放流されている。

サケの分布について調査した結果は、第1表に示した。上記4河川以外に、久慈川支流里川、茂宮川、十王川、関根川、里根川、霞ヶ浦、北浦、瀬沼に溯上、又は採捕記録等がある。これら河川湖沼のうち、茂宮川は、久慈川本川溯上サケが迷込んだものと思われ、関根川も他河川溯上予定魚の迷込みと思われる。同じように、霞ヶ浦・北浦は、利根川溯上予定魚の迷込み、瀬沼は、那珂川溯上予定魚の迷込みと思われる。しかし、瀬沼では、毎年数10尾が長袋網によって漁獲されているようである。

里根川では、昭和55年4月22日にサケ稚魚が投網で採捕された。また付近で聞き取り調査をした結果、「昭和54年秋季にサケ親魚の溯上が見られた」という事から、サケ親魚の溯上が定着している可能性がある。次に十王川については、漁業組合員によると、毎年数10尾の溯上が見ら

れることから、十王川も親魚溯上は定着しているものと思われる。久慈川支流の里川は、毎年溯上がみられ、建網によって漁獲され、久慈川漁業協同組合のふ化場に、採卵・受精された卵は収容される。また、天然産卵場が常陸太田市里野宮に形成される。

第1表 サケ親魚溯上河川湖沼

| 河川湖沼名 | 採 捕 | 聞 取 | 文 献 記 載 | 備 考 |
|-------|-------|-----|---------|-------------------|
| 利 根 川 | ○ | | | 数 100 尾溯上 |
| 鬼 怒 川 | ○ | | | " |
| 那 珂 川 | ○ | | | 数 1,000 尾溯上 |
| 久 慈 川 | ○ | | | 数 100 ~ 1,000 尾溯上 |
| 里 川 | ○ | | | |
| 茂 宮 川 | | ○ | | |
| 十 王 川 | | ○ | | 数 10 尾溯上 |
| 関 根 川 | | | | 数尾溯上(迷込) |
| 大 北 川 | ○ | | | 数 100 尾溯上 |
| 里 根 川 | ○(稚魚) | | | |
| 霞 ケ 浦 | | | ○ | 数年に1尾(迷込) |
| 北 浦 | | | ○ | " (") |
| 涸 沼 | ○ | | | 数 10 尾(迷込) |

(2) その他サケ科魚類

県内の内水面に分布(サケを除く)サケ科魚類について水系毎に第2表に示した。

(2)-1 サクラマス

本種は、利根川・那珂川・大北川・十王川に分布する。また、霞ヶ浦で銀毛稚魚が採捕²⁾された記録がある。

那珂川は、県内河川では、サクラマスが最多と思われ、銀毛稚魚がしばしば採捕される。また涸沼でも張網等によって時々採捕されることがある。しかし県内の那珂川水系には、現在ヤマメの棲息分布がみられないことから、このサクラマスは、上流(栃木県)の各支流に分布するヤマメが降海型となって降下、また溯上しているものと思われる(最近県内の那珂川水系にもヤマメが放流され始めた:支流,相川,昭和56年1,000尾,藤井川ダム,昭和57年5,000尾)。

同様に、利根川水系も県内ではヤマメの棲息分布がみられないことから、上流部から降海する銀毛稚魚、溯上親魚と思われる。

サクラマスが分布するその他の河川(久慈川,十王川,大北川)は、親魚溯上数も少なく、量的には、極めて少ないようである。

第2表 その他サケ科魚類の棲息分布

| 水系名 | 採 捕 等 | | | | 聞 取 | | | | | 文献記載 | 備 考 |
|-----|----------------|--------------|-------------|-------------|------------------|-----------------------|--------------|-------------|------------------|-----------------------|---------------------------------|
| | サクラ ラ マス | ヤマ マ メ | イ ワ メ | イ ワ ナ | ニ ジ マ ス | サ ク ラ マ ス | ヤマ マ メ | イ ワ ナ | ニ ジ マ ス | サ ク ラ マ ス | |
| 利根川 | | | | | | | | | | ○ | サクラマスは他県(利根川, 鬼怒川等)山間部から降河 |
| 那珂川 | | | | | | ○ | | | | | サクラマスは他県(那珂川上流)山間部から降河 |
| 久慈川 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | 毎年支流に稚魚放流・上流養魚場からの逃亡(ニジマス) |
| 十王川 | | ○ | | | | | | | | | |
| 花貫川 | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | 花貫ダムに棲息(ニジマス; 上流に養魚場がありそこからの逃亡) |
| 関根川 | | ○ | | | | | | | | ○ | 上流に養魚場がありそこからの逃亡(ニジマス) |
| 大北川 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | 上流に養魚場がありそこからの逃亡(ニジマス) |
| 里根川 | | | | | | | ○ | | | | |
| 霞ヶ浦 | | | | | | | | | | | |
| 北 浦 | | | | | | | | | | | |
| 湫 沼 | | | | | | ○ | | | | | |

(2)-2 ヤマメ

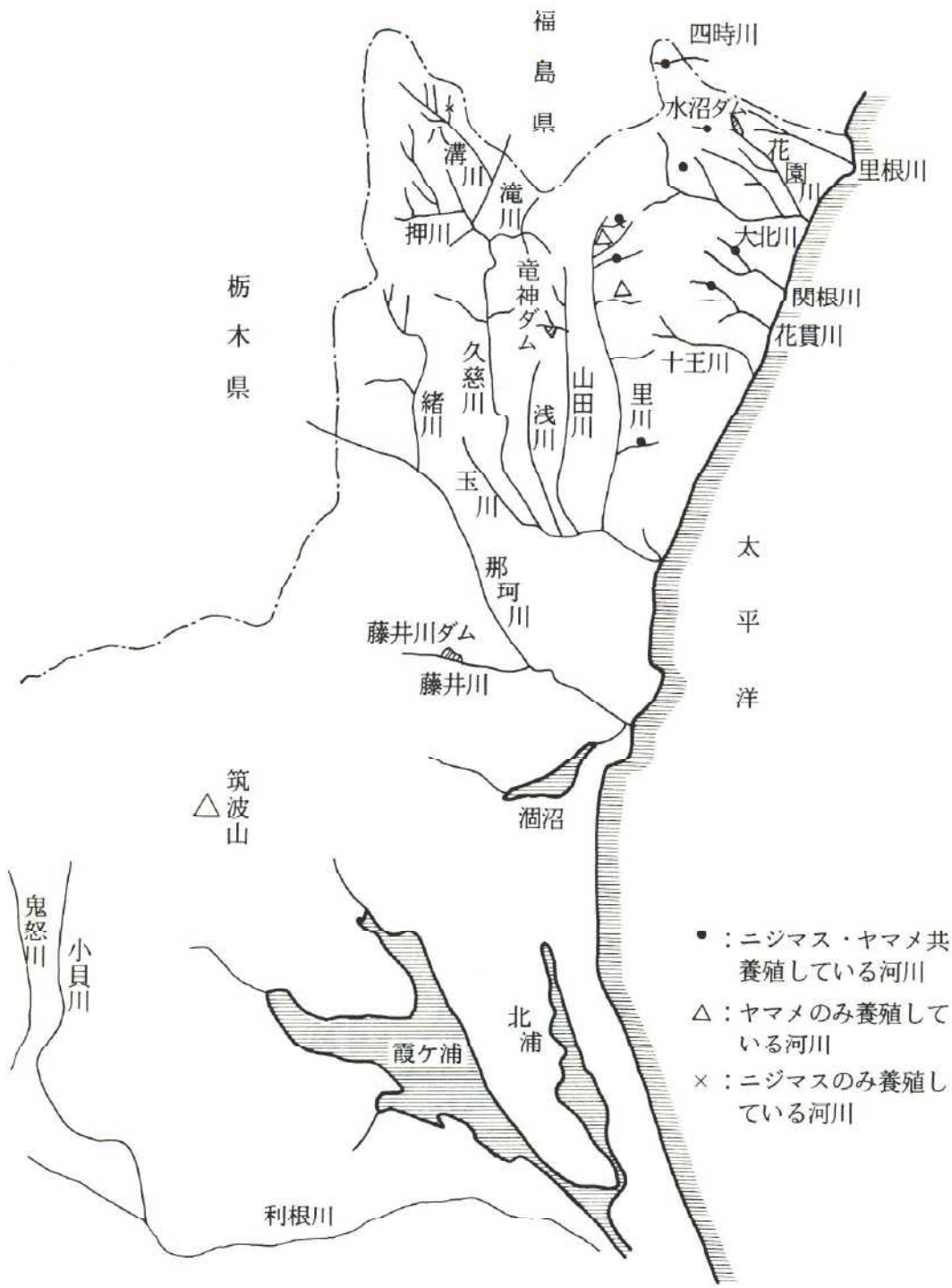
ヤマメは、県北山間地を中心に普通に棲息分布がみられ、県内サケ科魚類の中では、数的には最も多いようである。また、放流数も近年、15万尾前後が成されている(放流ヤマメ稚魚は、群馬県吾妻川原産親魚より生産されている)。放流河川沢は、筆者の知る範囲では第3表および第2図に示すところである(他にも放流河川があると思われる)。また、第1図に河川水を利用したヤマメ・ニジマスを養殖する者の位置を示した。この養殖場のある河川では、稚魚・成魚・卵の流出によって河川内に棲息している可能性が考えられる。

(2)-3 イワメ(無紋ヤマメ)

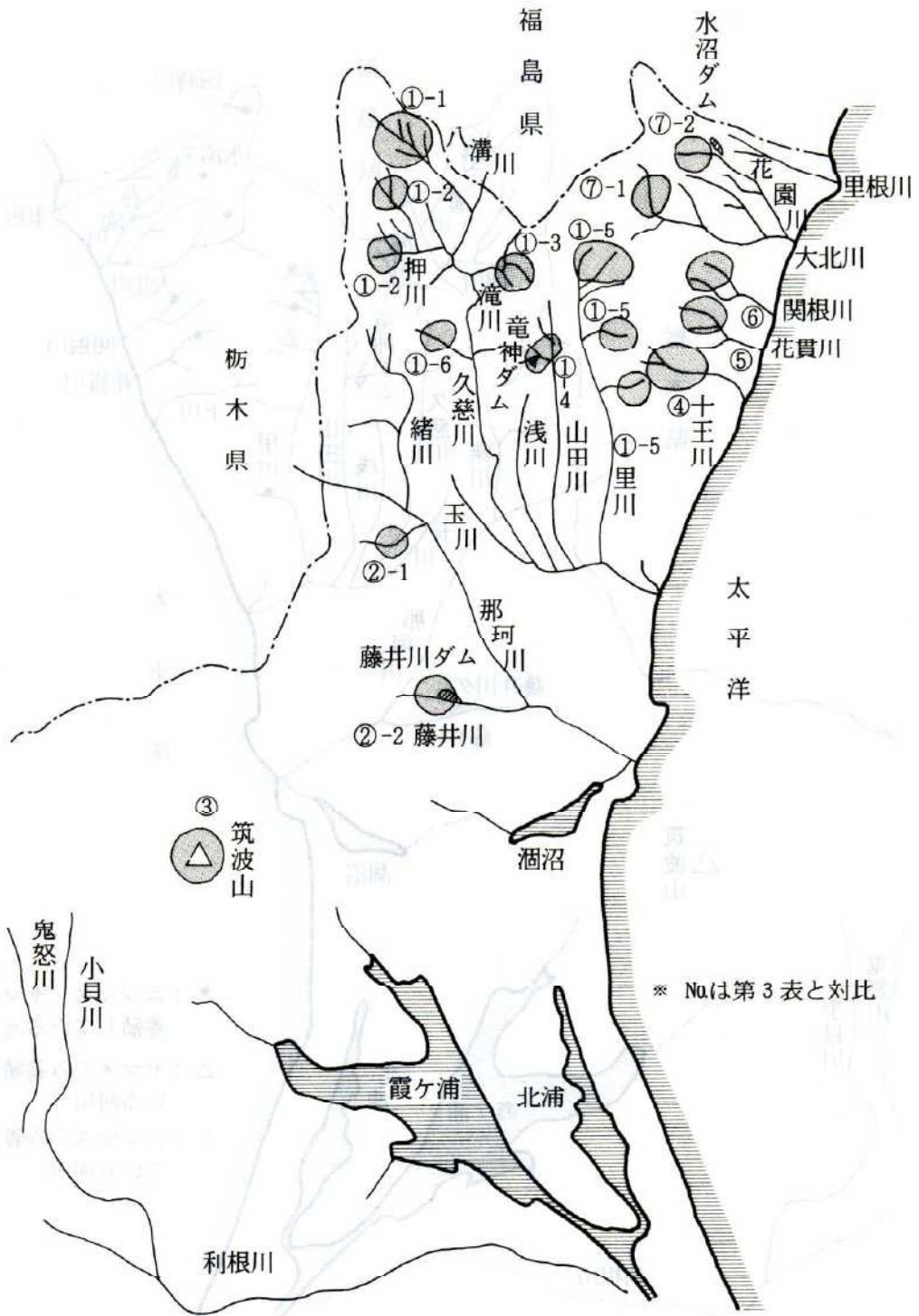
ヤマメ水系では、現在2ヶ所棲息分布があるといわれる¹⁾。1ヶ所は神奈川県酒匂川、他の1ヶ所は県内の花貫川で、位田他^{3,4)}によって報告されている。数はヤマメ9にイワメ1位といわれ、イワメは多く見積っても数10尾程度と思われる。現在、親魚を養成し、人工種苗生産の可能性について検討中である。

第3表 ヤマメ放流河川沢等

| 水系 | No | 河川・沢名等 | 備考 |
|-----|-----|------------------|------------------|
| 桜川 | ③ | 男女の川 | 毎年10,000尾位 |
| 那珂川 | ②-1 | 相川 | 1,000尾(昭和55年) |
| | ②-2 | 藤井川ダム | 5,000尾(昭和56年から) |
| 久慈川 | ①-1 | 八溝川 | } 各沢1,000~2,000尾 |
| | " | くされ沢 | |
| | " | 荒沢 | |
| | " | かぶれ石沢 | |
| | " | 大久保沢 | |
| | " | 小田貝沢 | |
| | ①-2 | 押川 | } 各沢1,000~3,000尾 |
| | " | 相川 | |
| | " | 初原川 | |
| | " | 浅川 | |
| ①-6 | 大沢川 | | |
| ①-4 | 山田川 | 約6,000尾 | |
| | 竜神川 | | |
| ①-3 | 滝川 | 約7,000尾 | |
| ①-5 | 里川 | } 各沢1,000~2,000尾 | |
| | " | | 入四間沢 |
| | " | | 河鹿沢 |
| | " | | 砂沢 |
| | " | | 天竜院川 |
| | " | | 大沢 |
| | " | | 行石沢 |
| " | 岡見沢 | | |
| 十王川 | ④ | 友部より上流および各沢 | 35,000尾 |
| 花貫川 | ⑤ | 中戸川 | } 数不明 |
| | | 本川上流(大能) | |
| 関根川 | ⑥ | 仙道坂上流 | } 数不明 |
| | | 滝の脇上流 | |
| 大北川 | ⑦-2 | 花園川(ダム上流) | 40,000尾 |
| | ⑦-2 | 本川(小神戸-柳沢) | 昭和55年40,000尾 |



第1図 ヤマメ・ニジマスの養殖場がある河川



第2図 ヤマメの放流場所

(2)ー4 イワナ

位田他⁵⁾の報告によって子細に記録されている。茨城県では、現在の分布は里川上流部、大北川上流部に限られ、棲息数も少ない。低高度に棲息するイワナとして、めずらしい存在である。アメマス型となって降海するものはないようである。

県内でイワナ放流は、現在ないが、棲息が可能な地域(八溝川、花園川上流、大北川上流)で放流を希望する者が多いことから、種苗生産技術の発展により近い将来放流が開始されようが、その際、在来イワナとの種の混合が引起される懸念があり、放流に当たっては在来イワナの棲息地を避ける等、注意が必要であろう。

(2)ー5 ニジマス

ニジマスは、県内では再生産はないことから、棲息分布がみられる地域では、放流か又は、付近の養殖場等からの逃亡による一過性の棲息分布と思われる。定期的な放流は久慈川漁業協同組合によって、過去に八溝川に行なわれた例があり、現在押川支流(初原川、浅川)に行なわれている。また花貫ダムにも棲息するといわれる⁶⁾。他に漁業組合関係では、久慈川漁業協同組合里川支部が(1, 2回程度)、十王川釣クラブ(現、十王川漁業協同組合、1回程)が釣対象に、それぞれの河川に放流した。また、最近、夏季子供会による魚のつかみどり大会等が盛んになり、これの取り残しによって残余している可能性もある。

ま と め

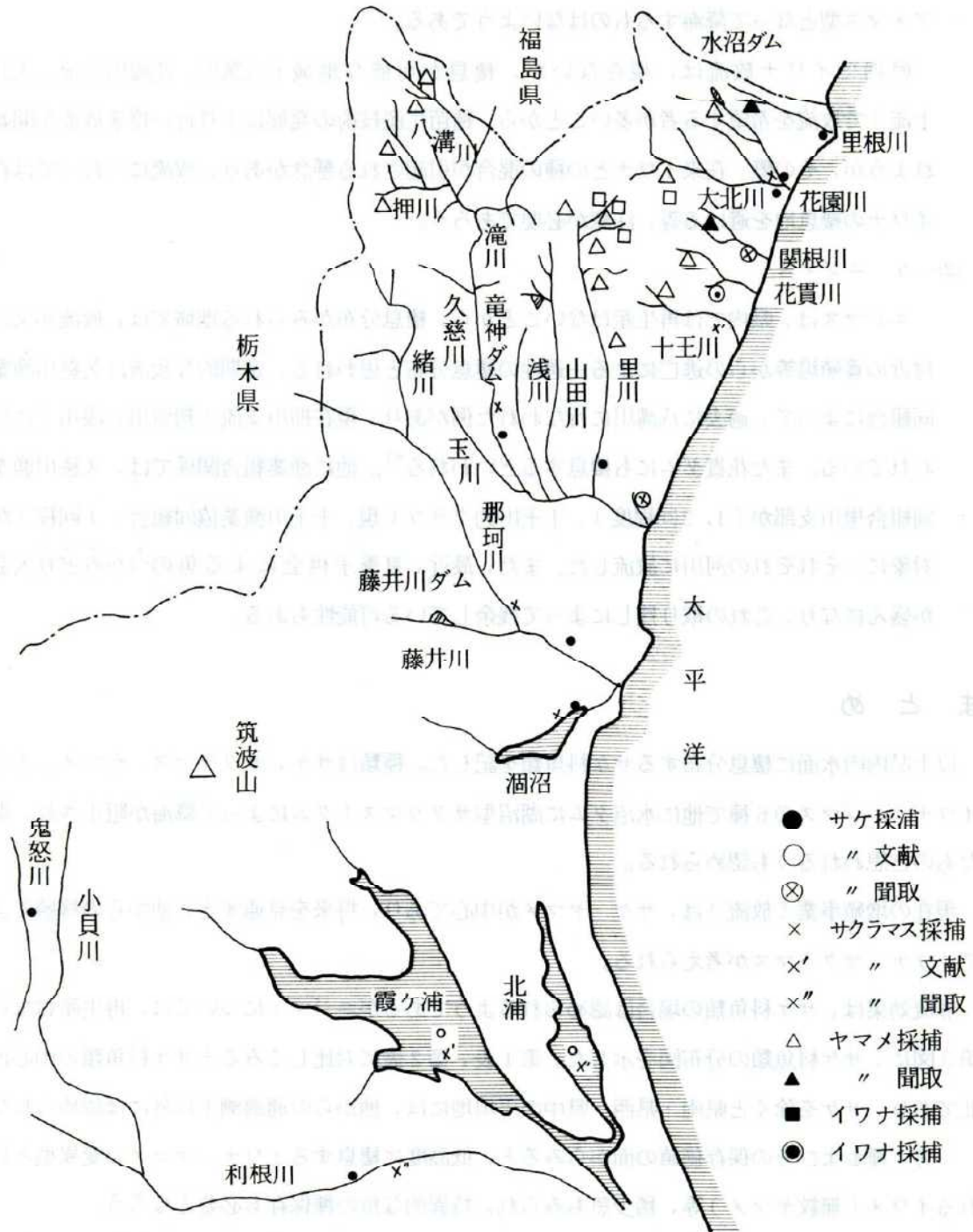
以上県内内水面に棲息分布するサケ科魚類を記した。種類はサケ、サクラマス、ヤマメ、イワメ、イワナ、ニジマスの6種で他に水沼ダムに湖沼型サクラマス(ダムによって降海が阻止され、滞ったものと思われる)も認められる。

現在の増殖事業(放流)は、サケ・ヤマメが中心であり、将来を見通すと、他からの移殖によってイワナ・サクラマスが考えられる。

放流効果は、サケ科魚類の場合は認められるようであるがニジマスについては、再生産はない。第3図に、サケ科魚類の分布図を示した。第1表、第2表に対比してみるとサケ科魚類の中心は県北であり、サケを除くと県南・県西・県中の平坦地には、他からの通過溯上以外には認められない。

一方、種およびその保存価値の面からみると、低高度に棲息するイワナ、ヤマメの変異型と思われるイワメ(無紋ヤマメ)等、稀少魚もみられ、特異的な魚の種保存も必要となろう。

現在、山間地域に棲息分布するヤマメ、イワナ等について、その環境をみると、水質面では特に悪化の傾向はみられないが、砂防堤の設置、農業・飲料・工業・用水の利用のための堰設置など、魚類の自由な通過等、また森林の伐採によって裸地となり、土砂の沢への流入により餌料生物の減少、



第3図 県内内水面のサケ科魚類の分布図

産卵場の消失等に問題点がある。鱚目鱈魚の川内県知

文 献

- 1) 中村守純 (1979) : 原色淡水魚類検索図鑑, 北隆館, 東京
- 2) 加瀬林成夫・浜田篤信 (1977) : 本誌No 14, P 59 ~ 64
- 3) 位田俊臣 (1981) : 水産育種 6, P 34 ~ 36
- 4) 位田俊臣 (1982) : 淡水魚, ヤマメ, アマゴ特集, 淡水魚保護協会, P 112 ~ 114
- 5) 位田俊臣・大川雅登・佐藤陽一 (1981) : 本誌No 18, P 97 ~ 106
- 6) 大川雅登・位田俊臣・佐藤陽一 (1981) : 同誌No 18, P 83 ~ 96